

# 日本共産党議員団ニュース

【No.565号】日本共産党伊勢原市会議員団 2020年3月29日  
宮脇俊彦 94-7584 Email:jcp.isehara.miyawaki@gmail.com  
川添康大 45-0596 Email:yasuhiro.k120@gmail.com  
事務所 TEL・FAX:93-1169  
HP: http://isehara.kir.jp/kyou01.html

3月6日に3月議会の総括質疑が行なわれました。今回、議員団ニュース563号に続いて宮脇俊彦議員が日本共産党伊勢原市議会議員団を代表して行なった質疑を紹介し、消費税が昨年10月から10%に引き上げられ、市民生活が厳しい状況におかれています。伊勢原市政が市民の暮らしを支え、応援する2020年度予算案を組んだかの宮脇俊彦議員立場で質問しました。



## 一般会計からの繰入れ削減は負担増

**質問**・国民健康保険特別会計に一般会計から法定外繰入れを国保加入者の負担を軽減するため行ってきました。ところが2020年度予算では前年度比5900万円減額しました。「国保加入者は重い負担になっている」と今まで答弁してきましたが、「重い負担」との認識を変えたのですか。

**回答**・2020年度予算では、歳出で県への保険事業納付金が2億2700万円減額となったため、財源不足が解消する見込みとなり、法定外繰入れを減額しました。

**質問**・国保基金（現時点で8億1000万円）を活用すれば国保税の引き下げは可能では。

**回答**・基金は保険者数の減少と保険事業費納付金の不透明さなどから一定期間維持したい。



**コメント**・国民健康保険税は加入者に重い負担になっています。そのことは市当局も認めてきました。そこで負担軽減のため一般会計から法定外繰入れを毎年約5億円行ってきました。しかし、国は法定外繰入れ削減を自治体に求め続けています。伊勢原市は国の言いなりに県下自治体でも率先して削減を進めているのです。市民の暮らしを守るためにも一緒に「繰入れ削減ストップ」の声を挙げましょう。

## 介護保険料の引き下げを

**質問**・7期は介護保険料月250円（年間3000円）引き下げが実現しました。しかし、介護基金残高は減ることなく今年度末5億9000万円残っています。介護基金残高を活用すれば、介護保険料の軽減をもっとできたのではなかったか。



介護基金残高が減っていないことをどう考えているのか。  
**回答**・介護給付準備基金は、給付費に不足が生じた場合などの不測の事態に備える目的もあり、一定額の保有は必要と考えています。

**質問**・介護で働く人の待遇改善は図られているのか。介護施設は働く人の確保に苦しんでいるのではないか。

**回答**・2019年度10月から、経験・技能のある職員に重点化しつつ職員の更なる処遇改善として、介護職員等特定処遇改善加算の算定が可能となりました。市としても介護現場の充実に向けて介護施設と連携していきます。



## 介護保険料は安心して払える保険料に

**コメント**・介護保険料は標準保険料月2000円台で始まっ

## 介護士の処遇改善も早急に

た保険料が現在月5200円です。市民の暮らしを守るためにも、基金を活用して、介護保険料の引き下げを求めています。

また、介護士の処遇改善についても国・県・市に求めています。



## 後期高齢者保険料の引き上げ中止を

**質問**・・・2020年度、加入者の負担が平均年額2820円引き上げられようとしている。中止すべきではないか。市民の声を反映する仕組みがないのではないか。

**回答**・・・後期高齢者医療制度の保険料率は、2年間の財政運営期間中の支出と収入を見込んで神奈川県後期高齢者医療広域連合で決定されています。県内市町村の議員から構成される議会で予算の審議・決定を行っています。要望があれば請願・陳情ができます。

**コメント**・・・後期高齢者医療制度の保険料が2020年度から引き上げられようとしています。一般会計からの繰入れを増やせば、保険料の引き上げをしなくても運営は可能です。繰入れ増額を求め、高齢者の負担軽減を実現させましょう。

## 女性が働きやすい職場の実現を

**質問**・・・女性職員の活躍に向け新年度の取り組みはどうなっているか。残業時間の削減を課題の一つにしていると認識していますが改善は。

**回答**・・・女性職員の管理職登用は2018年度の「行動計画」策定時の7.1%から2019年度当初に11.3%に上昇しています。今後、研修派遣等に取組み女性職員の活躍を推進します。



残業時間削減は減少傾向にありましたが、今年度は保育料の無償化や自然災害への対応等があり増加傾向になっています。働き方改革の推進等で改善に努めます。

**質問**・体調不良で1カ月以上の休暇となっている職員は、昨年比でどうなっていますか。

**回答**・・・1カ月以上休暇を取得している職員は、2016年度8人、2017年度15人、2018年度10人、2019年度（現時点まで）15人となっています。理由は様々ですが、円滑な職場復帰に向けて産業医や人事担当との面談、ならし勤務の実施などに取り組んでいます。

**コメント**・・・市は女性が活躍できる職場づくりを目指して「行動計画」を策定しましたが、2019年度の女性管理職の登用は11.3%遅れています。働く職場環境・研修制度の充実などやるべきことはあるのではないのでしょうか。

残業時間の削減が進まないのは、正規職員の削減が限界にきていることを示しています。国の制度変更が次々行われ、対応に苦慮している時に、自然災害があれば対応できない姿を明らかにしています。こうした事が職員のメンタルヘルスにも表れているのではないのでしょうか。職員が安心して市民サービスの向上に取り組めるような職場作りを積極的に行ってほしい。



## 残業時間の削減、メンタルヘルスの対応を

### 畑には春の気配が



昨年の5月から、歌川の河川敷の近くに知人から畑を借りて野菜作りを始めました。

4月からの野菜の苗植えに備えて畑の土起こしをしました。春の草が芽吹き始めていることに気づきました。青空に白く輝く富士山が遠くで私達を見つめています。自然に抱かれた至福の一時です。

(宮脇俊彦)